

**みんなで作る
健やかなまち**

① 児童福祉の充実

子育て支援センターの運営 324万円

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

子育て支援センターは、子育て中の保護者の仲間づくりの場として開設し、子育てに係る悩みの相談や育児サークル「ぴよぴよきっず」の活動支援を行っているほか、子育てからのリフレッシュを目的とした「子育てスクール」の開催や子育て支援センターの行事や乳幼児健診の日程などを掲載したお便りの発行も行っています。

また、子育て支援ボランティアがこの会と協力し、小学校の授業参観日や子育てスクールなどの際に託児を行っています。

平成26年度は、砂場の抗菌砂の入れ替え、木製遊具への防腐剤塗布のほか、ターザンロープの取り替えなど、劣化してきた遊具の補修を行いました。

<財源内訳>

国の補助金	93万円
道の補助金	93万円
子育てスクールの参加料	3万円
町の負担	135万円



できっずカードの発行 689万円

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

妊婦や中学生以下の子どもがいる世帯を経済的に支援するため、子育て世帯専用のポイントカード「できっずカード」を1世帯につき5枚交付しています。このカードは満点になると5000円分、買い物や預金に利用することができ、4500円分を町が負担しています。

平成26年度は、対象508世帯のうち431世帯(交付率84.8%)に合計2155枚のできっずカードを交付しました。満点カードの使用枚数は1508枚(70.0%)でした。



満点特典詳細

- 加盟店で500円+4,500円のお買い物が出れます。 **お買物 500円**
- 指定金融機関にて500円+4,500円の預金が出れます。 **預金 500円**
- 楽しいイベントに参加でき、加盟店で4,500円のお買物が出れます。この場合カードの一部を切り取ります。 **イベント 参加**

※本カードは発行年度内(発行年度の3月31日迄)に、満点となった特典を利用しない場合、プラス4,500円のプレミアムは利用できなくなります。

●お買上100円(税別)毎にポイント100円単位でカードに貯蓄します。
●お買上1,500円(税別)毎に1マーク印字、100マークで満点になります。

しんとつかわポイントカード会事務局 新十津川町中央 18-3 ☎76-2571

住所

※満点後、随時牛のパンで記入ください。

おっぴん!
プレミアム
4,500円

●お買物 ●預金

※イベントに参加した場合預金はできません。

プレミアム特典を利用する場合、子ども世帯認定バーストマークをご提示ください。

児童館の管理運営

778万円

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

児童館では、5人の児童厚生員が放課後や休日などに、子どもたちが安心して遊べるよう、さまざまな行事を行っており、延べ1万6592人の児童が来館しました。

また、児童の遊びを通じての指導や保護者からの子育て相談に対応するため、子育て支援アドバイザー1人を配置しました。

<財源内訳>

道の補助金	97万円
参加者負担金	1万円
町の負担	680万円



子育て世帯臨時特例給付金の支給 726万円

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

消費税率の引き上げに際し、子育て世帯への影響を緩和し、消費の下支えを図るため、臨時的な給付を行いました。

【支給対象者】

平成26年1月分の児童手当支給対象者で、児童手当の所得制限額に満たない方

【給付額】

対象児童1人につき1万円

【支給世帯・児童数】

417世帯・702人

<財源内訳>

国の補助金 726万円

子育て世帯臨時特例
給付金イメージキャラクター
コソダテカクニンジャ



子ども・子育て支援事業 524万円

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

子ども・子育て新制度に対応するため、保育園や幼稚園などの事務手続きを処理するための電子システムを導入しました。

また、平成27年から5年間の「子ども・子育て支援事業計画」を策定し、計画書を作成しました。

<財源内訳>

道の補助金	217万円
町の負担	307万円



② 障がい者福祉の充実

障がい者の日常生活の支援 417万円

(担当：保健福祉課介護・福祉グループ)

障がいのある方が住み慣れた地域で安心して生活するため、個々にあった必要なサービスを提供しました。

外出時に移動する際の介助支援、日中の見守り支援、日常生活に必要な用具の給付や貸与などを行いました。

<財源内訳>

国の補助金	208万円
道の補助金	104万円
町の負担	105万円

地域活動支援センター負担金 684万円

(担当：保健福祉課介護・福祉グループ)

地域活動支援センターの指定を受けている、ゆめりあ内の「あざれあ工房」と砂川市の「ぼぼろ」に対し、運営費の一部を負担しました。

地域活動支援センターは、心身に障がいのある方が通所する福祉施設で、「あざれあ工房」では、手芸品の作成や菓子箱の組み立てなどを行いました。

また、砂川市の「ぼぼろ」では、話し合いの場や料理・軽スポーツなどの活動の場を提供しました。

障がい福祉サービスの提供

2億1363万円

(担当：保健福祉課介護・福祉グループ)

障がいのある方が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、サービスを提供しました。

また、個々のニーズに応じた適正なサービスを提供するため、必要な情報の提供や助言を行い、サービスの利用計画を作成しました。

【主なサービス】

○在宅で訪問を受け利用するサービス

入浴、排せつ、食事の介護および調理、洗濯などの家事援助を行いました。

○施設などで昼間の活動を支援するサービス

施設での入浴、排せつ、食事の介護および個々の能力に応じた就労支援を行いました。

○住まいの場を提供するサービス

さまざまな障がいのある方が共同生活を送ることができるよう、日常生活に必要な支援を行いました。

<財源内訳>

国の負担金	1億681万円
道の負担金	5340万円
町の負担	5342万円

③ 高齢者福祉の充実

介護予防のための通所型サービス

685万円

(担当：保健福祉課介護・福祉グループ)

高齢者が要介護の状態になるのを防ぐため、運動機能の維持向上や認知機能の低下予防のためのデイサービス事業を行いました。

【主な事業の内容】

- 元気満点教室（開催期間：通年）
イスに座りながらの運動や体を使ったレクリエーションなどの運動プログラム、認知機能の低下予防のための各種プログラム・行事などを行いました。
- 楽絡（らくらく）運動教室（開催期間：11月から3月まで）
冬期の閉じこもりや運動不足を予防するため、ゆめりあを会場に冬期限定の運動教室を開催しました。
- 高齢者サロン（開催期間：10月から3月まで）
介護予防の推進を目的に、地域の高齢者同士の交流を図る事業として、徳富区をモデル地区に選定して行いました。定期的な活動に休まず参加し、身心機能の維持向上につながっています。

<財源内訳>

利用者負担金 56万円
介護予防事業受託金 629万円

高齢者や障がい者の見守り 9万円

(担当：保健福祉課介護・福祉グループ)

高齢化率の高いみどり区、花月区をモデル地区に設定し、一人暮らし高齢者や障がいのある方のうち見守りの希望があった方に、支援員を選任しました。

支援員は週1回程度の定期的な訪問活動などの見守りを行いました。



緊急通報システムの設置 10万円

(担当：保健福祉課介護・福祉グループ)

ボタンを押すと消防署につながる、緊急通報システムの設置運用に係る費用を負担しました。

高齢者や障がいのある方の不安の軽減を図るとともに、緊急時の迅速な対応を行いました。

平成26年度は73世帯の利用があり、消防署への通報は7件、その全てに救急隊が出動して病院への搬送が行われました。

なお、緊急通報システムは、雨竜町との共同事業で行っています。

<財源内訳>

雨竜町の負担金 4万円
町の負担 6万円



臨時福祉給付金の支給 2067万円

(担当：保健福祉課介護・福祉グループ)

消費税率の引き上げに際し、所得の低い方々への影響を緩和し、消費の下支えを図るため、臨時的な給付を行いました。

【支給対象】

平成26年度分の市町村民税（均等割）が課税されていない方。なお、平成26年度分の市町村民税（均等割）が課税されている方の扶養親族、生活保護受給者などを除きます。

【給付額】

対象者1人につき1万円（老齢基礎年金、児童扶養手当などの受給者は5千円を加算）

【支給人数】

1295人（うち加算対象940人）

<財源内訳>

国の補助金 2013万円
町の負担 54万円

灯油購入費の助成 131万円

(担当：保健福祉課介護・福祉グループ)

冬期間の暖房に欠かすことのできない灯油の価格が高騰したため、一定の要件を満たした高齢者世帯や障がいのある方の世帯、ひとり親世帯など166世帯に対し、1世帯当たり100リットル分の福祉灯油券を発行しました。

<財源内訳>

道の補助金 65万円
町の負担 66万円

ふるさと学園大学の運営 93万円

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

高齢者を対象に、学習意欲の向上、健康や体力の維持・増進などを目的とした講義を年間8回開催しました。

203人の学生が入学し、充実した生きがいのある生活を目指すため、身近な話題をテーマとした講義を受講しました。

なお、203人のうち62人の学生が皆勤者となりました。

また、平成26年度はふるさと学園大学が開講して30周年となり、記念事業として、落語家の三遊亭楽春さんを招き、講演会を開催しました。

<財源内訳>

道の補助金 7万円
町の負担 86万円



シニアいきいきクラブの開催 11万円

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

60歳以上の方を対象に、新たな仲間、新たな趣味、新たな生きがいを見つけるきっかけづくりを目的に、シニアいきいきクラブを開催しました。

平成26年度は、カラオケ、和紙・千代紙細工、ノルディックウォーキング、プリザーブドフラワーの4つの教室を開催し、延べ98人が参加しました。

<財源内訳>

参加者負担金 4万円
町の負担 7万円



高齢者宅などの除雪 290万円

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

高齢者や障がい者世帯の冬期間の除雪の不安を解消し、在宅生活を確保するため、11月から3月までの期間、除雪サービスを実施しました。

除雪の範囲は、玄関から道路までの人が通れる程度とベランダおよび窓（家の中で1カ所）で、42人がこの制度を利用しました。

<財源内訳>

国の交付金	91万円
利用者の負担金	33万円
町の負担	166万円



レクリエーション・インストラクターの養成 9万円

(担当：保健福祉課子ども・高齢者グループ)

札幌で行われたレクリエーション・インストラクター養成講習会に1人が参加し、それに係る交通費や受講料などを負担しました。

また、インストラクターの活躍の場として出前講座を開設し、単位老人クラブの定例会で7回のレクリエーションを実践しました。



④ 健康づくりの推進

健康づくり対策

340万円

(担当：保健福祉課健康推進グループ)

栄養・食生活改善対策として、食のアドバイザー佐々木十美氏による食生活改善講演会の開催や「食生活知っ得情報（料理レシピ）チラシ」の町内全戸配布により、栄養や食生活改善に必要な情報を提供しました。

また、6月から10月までをウォーキング推進期間とし、ウォーキングスタートセットを配布することにより、体を動かす習慣を身に付けるためのウォーキングを推進しました。

<財源内訳>

道の補助金	30万円
団体からの助成金	25万円
町の負担	285万円



成人健康診査事業

196万円

(担当：保健福祉課健康推進グループ)

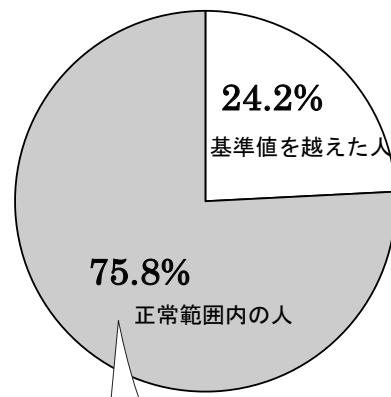
若年者健診、肝炎ウイルス検診、骨粗しょう症検診、エキノコックス症検診を行いました。
また、平成26年度から新たに、早期からの健診受診の習慣化、生活改善および生活習慣病予防を目的に、20歳代の若年者健診を開始しました。

受診者数は62人で、その結果、LDL（悪玉）コレステロールの基準値を越える人の割合が高いことが分かりました。基準値を越えても、自覚症状がないため、健診で確認することが大切です。健診結果説明会を開催して、結果表の見方と生活改善に向けた相談を行いました。

<財源内訳>

道の補助金	56万円
受診者負担金	17万円
町の負担	123万円
(内 借入金)	120万円)

悪玉コレステロールの基準値を超える割合



LDLは、受診者の4人に1人が、基準値を超えていました。LDLは、体の各所に必要なコレステロールを血流に乗って運ぶ役割をしていますので、値が高いと余分な脂肪分が血管内壁にへばりつき、放置すると動脈硬化の原因となります。血栓による、心筋梗塞、狭心症や脳梗塞のリスクを高めます。

高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種 262万円

(担当：保健福祉課健康推進グループ)

高齢者肺炎球菌予防接種を受けたことがない65歳以上の高齢者を対象に、肺炎球菌ワクチンの費用を1人につき7000円助成し、373人が無料で受診しました。

※高齢者肺炎球菌ワクチンとは

肺炎球菌ワクチンは、高齢者の肺炎を起こす最も多い原因菌である「肺炎球菌」による感染症を予防するワクチンです。

<財源内訳>

道の補助金	76万円
町の負担	186万円

⑤ 医療環境の充実

国民健康保険

3億8161万円

(担当：住民課戸籍保険グループ)

保険運営を行う広域連合への負担金、保険税の収納に係る経費や国民健康保険税審議会の開催経費など、保険事業を安定的に運営するための経費を支出しました。

40歳～74歳の加入者を対象とした特定健診の個人負担を無料化し、病気の早期発見・早期治療による医療費削減に努めました。

<財源内訳>

国の補助金	1499万円
道の補助金	2463万円
加入者の保険税	2億2485万円
町の負担	1億1714万円

【被保険者数および1人当たり医療費の推移】

	H24	H25	H26
平均被保険者数	2127人	2010人	1918人
前年度対比	△3.2%	△5.5%	△4.6%
1人当たり医療費	41万1130円	40万9698円	41万5463円
前年度対比	1.24%	△0.35%	1.4%

後期高齢者医療保険

1億268万円

(担当：住民課戸籍保険グループ)

保険証の作成や保険料の決定などの運営を行う広域連合への負担金や、町が行う保険証の交付、各種療養費の受け付け、保険料を収納して広域連合へ納付するための経費を支出しました。

<財源内訳>

道の補助金	2208万円
道広域連合の交付金	6万円
加入者の保険料	7053万円
町の負担	1001万円

【1人当たり医療費の推移】

区分	H23		H24		H25		H26	
	金額	順位	金額	順位	金額	順位	金額	順位
新十津川町	91万4098円	125位	91万2669円	131位	90万9181円	136位	97万4455円	90位
全道平均	107万442円		108万1083円		109万1704円		109万14円	

※平成26年度は確定していないため、暫定的な数値となっています。

※表中の「順位」は、北海道の177（東川町、東神楽町、美瑛町は3町で共同運営）市町村の順位です。

1人当たりの医療費が高いほど、順位が高くなります。

中学生までの医療費無料化

2024万円

(担当：住民課戸籍保険グループ)

子育て世帯の経済的負担を軽減し、子どもの健康管理を支援するため、0歳から中学生までのお子さんが病院で診療を受けたときの保険医療費の全額を助成しました。

<財源内訳>

- 道の補助金 263万円
- 保険者の負担金 2万円
- 町の負担 1759万円
- (内 借入金 1680万円)

【平成26年度の助成実績】

	全体		未就学児		小学生		中学生	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
入院	76件	301万6267円	43件	143万3391円	17件	79万1871円	16件	79万1005円
通院	5285件	990万5462円	2857件	395万6075円	1517件	351万3905円	911件	243万5482円
歯科	1071件	226万7866円	387件	41万923円	495件	129万1847円	189件	56万5096円
調剤	3512件	428万9364円	2015件	172万3482円	981件	184万1419円	516件	72万4463円
合計	9944件	1947万8959円	5302件	752万3871円	3010件	743万9042円	1632件	451万6046円

■は町独自助成

ゆめりあ 食生活知っ得情報

町の健康推進計画である「健康プラン新十津川」に基づき、昨年度に引き続き生活習慣病予防のため、管理栄養士が考えた「健康料理レシピ(作り方)」を配布します。今回は冬にぴったりの保存野菜を使った温かい料理を考案しました。ぜひ、一度お試しください。

健康料理レシピ(その1)

冬の定番根菜「大根」 免疫強化で寒さを乗り切ろう!

大根には、「ジアスターゼ」や「オキシターゼ」などの消化酵素が豊富に含まれており、胃腸の働きを助け、消化不良を解消したり、胃腸をコントロールして胃もたれや胸やけを防止する働きがあります。大根には全身の60〜70%の免疫細胞が存在するため、腸内環境を保つことにより、免疫力を強化します。

ひらひら大根スープ

【材料/4人分】

- 大根 150g
- 人参 20g
- 鶏肉 50g
- シメジ 1/2パック
- 小ねぎ 適量
- 生姜 10g
- 醤油 50g
- 味噌 2g(3cm×6cm)
- 酒 大さじ1
- 水 800cc
- 塩 小さじ1/2
- こしょう 少々
- ごま油 小さじ1/2
- しょうゆ 大さじ1

【作り方】

- 大根、人参は千切りにする。鶏肉は一口大に切って煮込んだら、鶏肉を加え、酒で鶏肉をくずし、弱火で15分ほど煮る。アクがたったら取る。
- 大根は皮むき後千切りにする。人参は千切り、シメジは小房に分ける。
- 鍋に人参、シメジを加え、塩、こしょうを加えおろし器で、人参に火が通ったら、大根を加え2〜3分ほど煮て、ごま油、しょうゆを加える。最後に盛りつけて、小ねぎを飾る。

【1人分の栄養価】 エネルギー250kcal / たんぱく質13g / カルシウム16mg / 塩分1.4g

※健康推進計画、健康づくりに関する相談等は、保健課、管理栄養士へ
新十津川町 保健福祉課 健康推進グループ(ゆめりあ内)
 TEL.0125-72-2000 FAX.0125-72-2006

ゆめりあ 加工室のご案内

手作り加工品のできたてを味わいませんか?

手作り加工品のおすすめポイント

- ◎原材料を自分たちで用意するので、安心・安全な食品を作ることができる。
- ◎自然のものを使うよりも安価に作ることもできる。
- ◎できたての食品を味わうことができる。
- ◎グループで作るので、仲間づくりができる。

加工室で作られている主な食品です。

- 利用できる時間：平日(月～金)のみ 午前9時～午後5時
- 予約方法：原則2人以上のグループで電話または窓口でお申し込みください。※お申し込みの際は、加工室の稼働状況を確認してください。予約は、お電話かメールにて。
- 申込期間：利用する3ヵ月前から1週間前まで。
- 使用料：1室(4時間以内)600円 ※1時間あたり300円(200円税別)
- 持ち物：必要な食料、エプロン、三角巾、ふせん、洗剤上がったものを入れる容器など。
- 申込・問合せ：新十津川町総合健康福祉センターゆめりあ内 保健福祉課健康推進グループ TEL.0125-72-2000

※加工室は団体・個人問わずご利用いただけます。

加工室の稼働状況は、加工室の稼働状況を確認してください。

加工室の稼働状況は、加工室の稼働状況を確認してください。

事業名	決算額	実施概要
児童福祉の充実		
誕生記念品の贈呈	20万円	誕生した35人のお子さんにベビー服を贈りました
児童手当の支給	8894万円	中学生以下の子どもを養育している方に手当を支給しました
保育園の運営	7437万円	指定管理者（華園学園）に委託して保育園を運営しました
子ども夢基金積立金	32万円	子ども夢基金の利子を積み立てました
障がい者福祉の充実		
自立支援医療費の給付	1600万円	人工透析などに係る医療費を助成しました
補装具費の支給	257万円	身体に障がいのある方に補装具を給付しました
重度心身障害者等介護手当の支給	57万円	重度障がい者の介護者に手当を支給しました
特別児童扶養手当支給事務	3万円	障がい児の保護者に手当を支給しました
機能訓練施設への交通費の助成	7万円	機能訓練施設への交通費を助成しました
精神障がい者の通所交通費の助成	62万円	社会復帰施設などへの交通費を助成しました
障がい児通所施設利用者の交通費助成	12万円	子ども通園センターなどへの交通費を助成しました
子ども通園センター負担金	22万円	子ども通園センターの運営費を負担しました
身障福祉協会の支援	4万円	身障福祉協会の活動を支援しました
高齢者福祉の充実		
ゆめりあ部会の運営	3万円	部会活動の成果を披露する発表会や体験教室を行いました
福祉バスの運営	123万円	高齢者無料バスの運行や車両の管理を行いました
長寿を祝う会の開催	122万円	「長寿を祝う会」の開催を支援しました
単位老人クラブの支援	91万円	町内の各老人クラブの活動を支援しました
老人クラブ連合会の支援	54万円	町の老人クラブ連合会の活動を支援しました
高齢者の福祉施設入所経費	521万円	行政の措置による施設入所者費用を助成しました
介護保険の運営	1億1431万円	介護保険の運営経費を空知中部広域連合に負担しました
在宅要援護者の通院支援	7万円	バス利用が困難な高齢者にタクシー代を助成しました

事業名	決算額	実施概要
健康づくりの推進		
子ども法定予防接種	655万円	子どもに必要な法定予防接種を行いました
インフルエンザ予防接種	182万円	対象者に1人1回につき1000円を助成しました
保健事務	55万円	保健事業に関する事務を行いました
成人健康診査2次健診	11万円	糖負荷検査や頸部エコーなどの詳細検査を行いました
がん検診	678万円	胃・肺・大腸・前立腺・乳・子宮頸がん検診を行いました
後期高齢者健康診査	58万円	後期高齢者の健康診査を113人に行いました
妊婦健康診査・相談	299万円	母子手帳の交付や妊婦健診助成を延べ60人に行いました
乳幼児健康診査・相談	60万円	乳幼児の健康診査、健康相談を行いました
特定不妊治療費の助成	23万円	特定不妊治療費を助成しました
総合健康福祉センターの管理	4358万円	ゆめりあの管理運営を行いました
栄養指導	120万円	栄養相談や食生活改善支援を行いました
健康体力増進室の管理運営	248万円	健康体力増進室の管理運営を行いました
医療環境の充実		
後期高齢者医療療養給付費負担金	9603万円	後期高齢者医療保険加入者の医療費を負担しました
24時間の訪問看護の確保	79万円	総合在宅ケア事業団の運営費を負担しました
救急医療の確保	98万円	休日や夜間などに救急患者が受診できる体制を確保しました
重度心身障がい者の医療費助成	1617万円	重度の障がいのある方の医療費を助成しました
ひとり親家庭の医療費助成	323万円	母子家庭、父子家庭などの医療費を助成しました
未熟児養育医療費の助成	18万円	入院を必要とする未熟児の医療費を助成しました